

●令和3年度一般選抜前期日程試験講評（英語）

ねらい

前期試験では、大学で求められる基本的な学力を試すことを念頭に、共通テストとは異なる視点で総合的な英語力を問う。具体的には、長文の内容を素早く読み取り、その要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力(或いは、語彙の説明がなされている箇所を的確に理解する力)、自分の考えを英語で論理的に表現する力を試すことをねらいとしている。

全体講評 I、II

「ねらい」にある「要点を英語で簡潔に表現する力や、未知の語彙について文脈中で説明されている箇所を的確に理解する力」を試す問題である。記述式問題の解答においては、問題文の意味を読みとれていない解答や、正解に該当する箇所をただ抜き出しているだけの解答、完全な文（主語、動詞を伴う文）で答えられていないものなどが多かった。正解を導き出すには、本文だけでなく問題文もよく読み、問いに対応した形に本文の表現をパラフレーズさせて答えることが重要である。日頃から主語と動詞の対応などを考えながら、英文の問いに対して適切に対処する練習を行ってほしい。また、本文中の難しい単語の意味に関しては、ある程度前後の内容から予想することができる。接続詞、形容詞、副詞などに着目して、文の大まかなニュアンスを把握することを心がけよう。

各設問について

I

問1

問1～3の問題は、英文の意味を文脈に合わせながら、さらに英文自体の構造を正確に分析し、自然な日本語にできるかを問う英文和訳問題です。

問1のアに関しては、novel（新しい）、will（意思）という箇所がうまく訳せていないようでした。単語には複数の意味があることに気をつけてください。その他の箇所の文構造は比較的的確に解釈できていました。

問2のイに関しては「パートナー」を「親・両親」とする誤訳が多く見られました。英文を解釈する時には、1つ1つの単語を正確に理解する習慣をつけてください。またよく見かける単語である treatment にも「治療・手当」という訳語があることを把握しておく必要があったと思います。文構造はIを主語にしたわかりやすい形になっていましたので誤訳は少なかったです。

問3のウがア～ウの英文和訳の中で最も間違が多かったです。まず、文脈から it が何を示しているのかよく理解できない解答が多く見られました。ここでは、we want it to take と「want+A+to+動詞の原形」の基本的な構造が理解できていないのが原因と考えられます。

また so that～の構文が take measures を修飾していることに気づいていない解答も多く見られました。英文解釈を行う上では、「単語の意味」の知識を増やし、「文の構造」を素早く正確に行うことができる訓練を積み重ねて行う必要があると考えます。

問2

問2は空所に合う前置詞、関係代名詞、動詞を選ぶ問題で、近年出題していなかった文法・語彙に関する問題である。共通テストでは出題されなくなった文法問題を補完することをねらいとしている。基本的な事項の問題ばかりであったが、3問とも正解した回答は少なかった。将来的に正しい英語で論文やエッセイを書けるようになるためにも、細かい文法事項に関しても学習を積んでもらいたい。

空所Aはthose whoで「～する人々」の意になるので、◎ whoが正解。空所の直後に“answered the survey”「調査に回答した」という記述があるので、thoseがここでは人を表していることは予想がつくはずである。

空所Bはschool closures「学校の閉鎖」という限られた期間で起こったことについての話がされているので、正解はⒶ during。

空所Cは直前にgive upがあることから、Ⓑ applyingが正解。「～することをあきらめる」とする場合、give upはfinishやenjoyのように後ろに現在分詞しか置くことができない。

問3

問題文は「第2段にある“equivalent”に最も近い意味のものはどれだと思うか？」の意。equivalentは「同等の、～に等しい」の意なので、正解はⒹ equal。equivalent付近の文は「法的に結婚した夫婦と（ ）なパートナー同士としてさいたま市に認められた～は…」の意なので、その内容からもequalが最も正解に近いと予測できる。

問4

問題文は「第3段にある“eligible”に最も近い意味のものはどれだと思うか？」の意。eligibleは「～する資格がある」の意であるため、正解はⒶ qualified。「LGBTのカップルは政府の経済援助を受ける（ ）がないという誤解」という文脈で出てくる言葉であるが、他の選択肢(Ⓑ～に囲まれた、◎拒絶された、Ⓓ～と見なされた)が空所に合わないことを考えると、推測と消去法で正解を見出すこともできる。

問5

問題文は「第4段にある“left out”に最も近い意味のものはどれだと思うか？」の意。leave outは「省く、締め出す」などの意であるため、正解はⒷ excludedである。この連語の意味を知らなかったとしても、outが「外に」の意で、ex-が「外へ」を表す接頭語であることから正解は推測できる。正答率は高かった。

問6

問題文は「調査に回答した34歳の男性が感染について神経質になるのはなぜか」の意。34歳の男性については第1段第2文に記述がある。特にworries以下の後半部分「コロナウイルスに感染するとパートナーについて保健所に伝えなければならない」という部分をまとめる必要がある。本文の内容をそのまま抜き出している受験生が多かったため、満点解答は少なかった。本学の記述問題は問題に即した形にパラフレーズするものが多いので、注意すること。

問7

問題文は「LGBTのカップルが抱えている misperception(第3段)とは何か?」の意。misperceptionは「誤解」の意。この単語の意味が分かれば簡単な問題になるが、もし分からなかったとしても、that they are not eligible...以下の部分が完全文であることを考えると、ここの that は関係代名詞ではなく、misperception を修飾する同格の that「～という〇〇」の形になっていることが推測できる。この that 以下の部分をまとめるとよい。本文のまま抜き出しても正解になる問題であったので、正答率は高かった。

問8

問題文は「Haru Ono が政府に行ってほしいことは何か?」の意。Ono 氏に関しては第3段第2～3文で触れられており、第2文に「政府はLGBTの親でも国の経済援助に申請できることをあきらかにしていない」ということ、第3文に「自分たちには申請資格がないと思ってあきらめているLGBTの親がたくさんいるので、周知をしてほしい」という Ono 氏の見解が述べられている。第3文を中心にまとめる必要があるが、本文を移すだけだと指示語や代名詞が何を指すのかわからない解答になってしまうので、うまくパラフレーズをして第2～3文両方の内容をカバーした文章にする必要がある。これも完全解答は少なかった。

II

問1

注意：今年度の答案に特徴的な問題があった。答案は採点者が読んで評価するので、答案作成時の中途半端な修正や判読できない文字を書くことは厳禁である。そのような答案しか作成できないようでは、大学入学後の学業でも支障をきたす。大学入学前に改善すべきである。

(ア) 解答例：読書愛は、学校での成績を良くしたり、良い仕事に就いたり、幸せで成功した人生を送るのに役立つので、子どもたちの将来を変えることができるということを私たちは知っている。

説明：主節の主語は We、動詞は know、目的語は that 節という単純な構造である。ここまでは理解できたようであった。しかし、that 節の中に helping で始まる分詞構文があることで、出来不出来が別れた。helping に対する(隠れた)主語は a love of reading であり、また、この分詞構文は理由か結果を表すと解釈するのが自然である。また、helping them to に続く動詞は do と get と live の3つである。なお、reading は「本を読むこと」であり、「本」と解釈するのは誤りである。正答率は1割程度であり、半分程度の部分点が多かった。

(イ) 解答例：本の持ち主であることも、読書愛を育むのに重要であるが、しかし、「(本を持っていないという)本の貧困」が極めて現実的な問題なのである。

説明：構文としては、第2文型 SVC が等位接続詞 yet で結ばれているという単純な構造である。しかし、本文を読まずに問題の英文だけを読んで訳したと思われる答案が数多く見受けられた。そのため、Book ownership を Bookshop ownership と勘違いしたり、yet を接続詞でなく副詞だと勘違いしたり、poverty の内容を理解していない答案が目立った。正答率は1割程度であり、半分程度の部分点が多かった。

(ウ) 解答例：世界本の日は、国中の子どもと若者一人ひとりに自分自身の本を1冊ずつ与えることができるように、これまで以上に多くの本を企画につぎ込んでいる。

説明：構文としては、第3文型 SVO に、副詞用法の to 不定詞が続くという単純な構造である。しかし、to 不定詞が「～するため」という目的を表すこと、また、provide A with B が「A に B を与える」を意味することや、A = every child and young person in the country で B = a book of their own を理解していない答案が目立った。正答率は1割程度であり、半分程度の部分点が多かった。

問2

本文の意味を理解する読解力と語彙力が要となる問題である。(A)は、新事実が示すことへの筆者の気持ちを表すので、B の Worryingly (心配なことに) となる。正答率は6割程度であった。(B)は、make a difference to A (A に変化を与える・影響を及ぼす) の応用形である。正答率は2割程度であった。(C)に関する箇所では Grant 氏の危惧する気持ちが述べられており、A の decline (衰退、低迷) が適切であることが分かる。正答率は2割程度であった。

問3

本文の意味を理解する読解力と語彙力が要となる問題である。[I]は、他動詞 revealed の後に文 SVO が続くので、接続詞 that が入る。[II]は、prefer A to B の to が入る。[III]は、more likely to との対比なので、likely が入る。正答率は、[I]が5割程度、[II]が3割程度、[III]が2割程度であった。

問4

並べ替え問題の[ア]は10%位の正答率だった。正答率の低かった原因としては、independent を置く位置がわからないためにうまく並べ替えられなかったのではないかと考えられる。以下のように shared reading has に続く目的語の部分形成するフレーズを作ることになる。その結果「シェアード・リーディングは、子供の独立した読書習慣に最も大きな影響を与えます。」という意味になるように並べ替えることになる。正解するためにはこの意味になることを読み取らなければならない。また、shared reading をある程度理解する(予想する)力が必要である。shared reading の注を付けたので参考にして欲しい¹。正解は以下の通り。

...shared reading has **the single biggest impact on a child's independent reading habits.**

並べ替え問題の[イ]は80%くらいの正答率で比較的良くできていた。並べ替えの次の部分 that were much more likely to enjoy ~と続くので、語を並べ替えて主語となるフレーズにする必要がある。文脈から「昨年 World Book Day に参加した子供たち」という意味にする必要がある。正解は以下の通り

Children who took part in World Book Day last year were much more likely to...

¹ Shared Reading is a teaching approach generally used in a whole class group where all students are able to see the same text. It is used to enable students to read and enjoy books that they may not be able to read independently, and to introduce and reinforce literacy skills and strategies before students are expected to apply them in guided or independent reading.

問5

パラグラフの意味が通るように、3つの文を並べ替える問題である。これも読解力が必要になる。前後関係（文脈）から推測してパラグラフ全体が論理的に構成されるようにしなければならない。30%位の正答率だった。

World Book Day is putting more books than ever into its campaign to provide every child and young person in the country with a book of their own. This year they have introduced a range of new initiatives that will help to get books directly into the hands of children who normally cannot access to them. 「World book Day は、国内のすべての子どもと若者に自分の本を提供するため、これまで以上に多くの本をキャンペーンに投入します。今年は、普段は本を手にするできない子どもたちに直接本を届けるために、さまざまな新しい取り組みを導入しています。」という前段の文章に続けて、①、②、③の文章を並べ替える。

① These include Dundee, Bradford, Swindon and Manchester, all areas where the National Literacy Trust works to bring together local businesses, health, education and cultural organizations to help tackle literacy challenges in the community.

「これらの地域は、ダンディー、ブラッドフォード、スウィンドン、マンチェスターなど、ナショナル・リテラシー・トラストが地域の企業、医療機関、教育機関、文化機関を結集して、地域における識字率向上の課題に取り組んでいる地域です」

② Having the chance to be inspired by a range of authors and illustrators will have an enormous impact on how the children in the audience view books and reading.

「さまざまな作家やイラストレーターから刺激を受ける機会を持つことは、観客の中の子どもたちが本や読書をどのように捉えているかに大きな影響を与えるでしょう」

③ Through its newly rebranded Share a Story Live tour, World Book Day will bring authors and illustrators to communities across the UK where low levels of literacy are seriously impacting people's lives.

「World Book Day は、新たにブランド名を変更した「Share a Story Live」ツアーを通じて、識字率の低さが人々の生活に深刻な影響を与えている英国内のコミュニティに、作家やイラストレーターを送り込んでいます」

まず①の These に注目すると、その指し示すものは communities である。①を先頭に持つてくるためにはその前にこの communities に当たる言葉が必要であるが、空欄部分の前には繋がる言葉はない。したがって、①は先頭にはこないことがわかる。すると、②、③のいずれかにその言葉を探すことになる。communities は③の中（下線を付した部分）に見出せる。つまり、③→①の流れができる。次に②が③の前か①の後かでどちらが文として成立するかを検討する。③識字率の低い地域に authors and illustrators を送る。①その地域の具体的な地名。②は③であげたことがどのような意味を持つのかの結果を示しているので、③→①→②という流れができる。

このようにこの問題はじっくり考える必要がある。

問6

問題文は「第1段によると、子どもたちの問題とは何か？」の意。80%位の正答率だった。new research ... reveals that～「新しい研究では～を明らかにしている」とあるので、その他との部分を考えれば良いことになる。つまり答えは Significantly fewer children and young people enjoy reading or read daily outside class (than last year). few は準否定語で数が少ないことを意味しているので、読書を楽しんだり教室以外で読書する子供たちが頗る少ないことを問題だと言っている。この比較級である fewer が捉えられていない答案がいくつかみられた。

問7

問題文は「第2段によると、楽しみのために本を読む生徒の割合は2016年から2019年までの間にどれほど減っているのか？」の意。この問題は数字を求められている問題であるが、40%位の正答率であった。how ではなく what が用いられているので読めなかった可能性がある。2016年の58.8%から2019年には52.5%に減少していることが書かれているので、 $58.8\% - 52.5\% = 6.3\%$ となる。It (=the percentage of decrease) was 6.3%が答えとなる。

問8

問題文は「第3段によると、楽しみのために本を読むことは子どもたちにとってなぜ重要なのか？」の意。ほとんどの学生が正答できていた。同段第1文に楽しんで子どもが読書をしているかどうかは、「子どもが将来的な成功をするのかどうかを指し示す最大にして唯一のものだ」とあるので、この部分をまとめると良い。第2文はWhat's more「さらに」から始まるが、このことから以降の内容は第1文の付け足しであることが分かる。よって第1文の方がより重要。

問9

問題文は「第4段によると、今年のWorld Book Dayが参加した子どもたちにもたらした影響はどのようなものであるか？」の意。正答した受験生が多かったが、英文の基本的な文法ミス(例、主語と述語動詞の一致、単数・複数、時制)が目立った。英文を書くときには、最初に構成を考え、書いた後に文法を確認する習慣を日ごろから付けることを勧める。

問10

問題文は「この記事によると、読書は楽しく、人生における大事なスキルであるにもかかわらず、若者はだんだん読書に時間を使わないようになってきている。この現象のもっとも重要な原因は何だと思いますか？」の意。三分の一程度の受験生がこの問題の意味が理解できていなかった。また、正答できた受験生も問9で述べた基本的な文法ミスが目立った。重複になるが、複数の英文を書くときには、最終的に文法確認を忘れないようにすることが重要である。

全体講評 III

総評

大学入学後に必要となる英文構成法に基づいて、論拠・理由を示しながら自分の考えを論理的に英語で表現できるかを試した。例年大問 I、II に関連したトピックについて 200 語程度のエッセイを書くという問題を出題していたが、今年度に関しては限られた時間の中で複数のトピックに対して簡潔かつ論理的に自分の意見を英語で表現する力を試すねらいもあり、100 語程度のパラグラフを書くという問題を 2 問出題した。合計で書かなければならない英語の語数は変わっていないので、難易度としては昨年度と大きく変わるものではないと思われる。形式は例年と異なるが、試験全体においてライティングが占める割合はあまり変わらないため、大問 III の出来が合否を左右すると言っても過言ではない。ライティングを捨てているように見える答案があるが勿体ない話である。

多くの受験生がパラグラフを書くための英語の指示文(Instructions for Paragraph Writing)を読んでおらず、100 語のエッセイが 2 題出題されたと勘違いしているように思われた。また、例年のエッセイ・ライティングと同じように大問 I、II の問題文の内容に関連させて書いている答案も多く見られた。Topic 1 にせよ Topic 2 にせよ、大問 I、II の内容に絡めて書こうとすると、かなり書く内容の選択の幅が狭くなってしまわずである。「宮崎公立大学の入試では読解問題の内容に関連するエッセイ・ライティングが出題される」と最初から決めつけていたためにこのようなミスが生じてしまったのだと思われるが、今年度の問題を見ればわかるように、毎年同じ形式の問題が出題されるとは限らない。どのような形式の問題にも対応できるような学習を行ってほしい。

常に日本語・英語の指示文をしっかりと読み、問題を解く習慣をつけることが肝要である。対策法としては、(1) 日頃から日本語や英語の文章を読むこと、(2) 読んだ内容に対して(批判的に)考えること、(3) 読んで感じたこと・考えたことを書くこと、を習慣化することがある。これによって読解力や分析力が深まり、入試対策のみならず、深みのある学力や教養を養うことが期待される。

高校の英作文の教科書は非常に良くできているので、英文を書く際の参考にして、英語の文章構成を理解し、それに則って何度も長い文章を書く練習をするとよい。また、以下の「答案作成についての講評および解答例」で指摘されている点にも十分に留意して英文を書く練習をすることを勧める。

答案作成についての講評および解答例

最後に採点者による講評と解答例を載せておく。自学自習や学校の授業で今年度の問題を使われる場合は、こちらの解答例を模範解答として使っていただきたい。

Topic One: Please describe the personality of an important person you know well.

[comment]

Many people slightly mis-interpreted the question to mean “somebody important to you” and they almost

invariably chose their mother. The question was really focused on describing the personality and achievements of someone, and the better arguments focused on a famous person who had overcome difficulties, thus offering juxtaposition between hardship and achievements. Many people also tried to add comments about LGBT and their acceptance of LGBT into their paragraph, although this was not necessary and was often not linked to their original paragraph.

An example paragraph is offered below:

[model answer]

I would like to introduce Greta Thunberg, the environmental activist. I admire Greta for her stance on protecting the environment and fighting global heating. Her greatest achievement is forcing many people to realize they must fight hard to fix this global issue. In addition, Greta has been diagnosed with Asperger syndrome and has shown many people that her syndrome is not a handicap to achieving great things. Greta also stands up to bullies, including the former President of the USA, Donald Trump. Her achievements and strong personality make me admire her a lot.

Topic Two: Except for stopping infections, describe the advantage or disadvantages of online lessons.

[comment]

This question was easier to understand with most people writing coherent arguments. One problem was that some people chose to write about disadvantages AND advantages, whereas the question was designed to build a single position from multiple arguments, which requires a greater level of critical thinking. Example of disadvantage and advantage paragraphs are given below:

[model answer]

Advantages:

I prefer to take online lessons for the following three reasons. First, I can save a lot of time by not traveling to classes early in the morning; therefore, I get more sleep and feel refreshed every day. Second, I can study at my own speed. Many classes now have on-demand videos, so I can watch complicated lessons many times to help me understand. Third, when lessons are “on demand” I don’t have to worry about timetable clashes so I can choose lessons I want to study without having to worry about missing other classes. For these reasons, I think online lessons are a good idea.

Disadvantages.

While online lessons can help me stay safe, I would prefer to take face-to-face classes; I have three reasons. First, I want to have opportunities to make friends, in online lessons, there is no chance to do this. Second, I want the teacher to check my work when I have difficulties, I think that on a small computer screen there are few opportunities to do this. Third, I need motivation, and the teacher can motivate me by telling me “good job” or “you must do this by Friday”. If I am not in the classroom with the teacher, I don’t feel these motivational comments. As such, I think face-to-face lessons are better for me.